

堺市消費生活協議会設置

戦後、復興活動に力を注ぎ、また、不当な公共料金の値上げや原水爆への反対運動を積極的に行っていた堺市女性団体協議会は、1960年代に入り、高度成長期の負の遺産である公害やごみ問題を解決し、合理的、安全安心な市民生活を実現するため、「新生活運動」「消費者運動」を展開した。さらに、より一層の「消費生活」の向上をめざし、その拠点となる設置を要望しつづけた。

1973年、長年にわたる献身的な活動と要望が実り、堺市立消費生活センターが開設され、1974年には消費生活の番人となるべく堺市消費生活協議会を結成した。

1970年代

主な活動

- ・発泡スチロールトレイの全廃をスーパーへ要望（1978年）
- ・原子力発電の安全性への不安高まる（1979年）
- ・石油等物資に関する行政との懇話会（1979年）
- ・物価110番開設（1979年）

1973年 堺市立消費生活センター開設

1974年 堺市消費生活協議会結成



堺市消費生活協議会 会長 山口彩子(当時)

- ・不用品あっせん会（毎週月曜日開催）
「もったいない」の消費者意識から、当時の役員が中心となり、毎週大繁盛だった。
→平成9年に発展的解消

推進していた活動

- ・AF2（殺菌剤）入り追放運動
- ・照射じゃがいも反対運動
- ・OPP添加柑橘類、サッカリンの使用 認可取り消し
- ・過酸化水素（漂白剤）に発がん性ありと発表
- ・合成洗剤不買運動